

東京デザイン巡り

新宿御苑

新宿御苑は新宿区と渋谷区にまたがる面積 58.3ha、周囲 3.5km の庭園です。そのルーツは徳川家康から家臣である内藤清成に与えられた内藤家の江戸藩邸にさかのぼります。現在の新宿御苑の面積よりも広い土地が与えられていましたが内藤新宿開設の際に大部分が返上されています。

地名にも名残がありこの辺りは東京都新宿区内藤町です、また内藤町はその大部分が新宿御苑の敷地となっています。

明治 5 年に内藤家から上納されたこの土地に近代農業振興のための内藤新宿試験場が建てられました。明治 12 年には宮内省管轄で新宿植物御苑となり皇室の御料地・農園とされていました。新宿御苑としてスタートを切ったのは明治 39 年の事で新宿植物御苑から新宿御苑への改装は明治 35 年から 4 年の歳月がかけられたそうです。

その後昭和 20 年の空襲でほぼ全焼する被害を受けましたが、昭和 22 年の閣議決定により国民公園として開放されることが決まり現在の新宿御苑への道に進み始めました。

開園時間

9:00 ~ 16:30 (最終入園は 16:00)
※施設により利用可能時間が異なります

休園日

毎週月曜日 (休日の場合は翌日)、年末年始
入園料

一般 200 円 小・中学生 100 円 幼児無料

広報委員：永田 翔太郎/株式会社ムラヤマ

歴史的建造物 園内には歴史的に貴重な建造物が多くあります

旧新宿門衛所



この2つの門衛所はどちらも昭和2年に建造され、当時の独特の建築デザインが反映されているそうです。

旧大木戸門衛所



旧洋館御休所

皇族が温室に訪れる際の休憩所として明治 29 年に建てられました。その後増築を重ね、大正後期にはクラブハウスとしても使用されていました。戦後は管理事務所として使用され、平成 13 年に大正 13 年の姿に改修が行われたうえで一般公開されています。

公開日：毎月第 2・4 土曜 10:00 ~ 15:00
重要文化財指定 (平成 13 年)



楽羽亭

日本庭園内にある茶室です。明治時代に建てられましたが昭和 20 年の戦災で一度失われています。その後昭和 62 年に再建されました。

立礼席で呈茶を行っている他、小間・広間を茶会や句会などに貸し出しています。
施設利用時間：10:00 ~ 16:00



擬木の橋

下の池の東端に架かっている橋の欄干で、木を模したコンクリートで出来ています。明治 38 年にフランスから購入し、フランス人技師 3 人を連れてきて設置を行ったそうです。今ではよく見る擬木ですがこの橋が日本初。何度かの修復を行っていますが当時の姿をとめています。



旧御涼亭 (台湾閣)

昭和 2 年に皇太子 (後の昭和天皇) の御成婚記念として台湾在住の邦人有志より贈られました。清朝中期以降の台湾の建築様式がみられます。東京都歴史的建造物指定 (平成 16 年)



フランス式整形庭園

左右対称、幾何学的に美しく整えられた庭園。バラ花壇には初夏に約 100 種以上 500 株の花々が咲き誇ります。156 本のプラタナスがきれいに植えられている約 200m の並木道があります。ベンチで読書にふける人が多く、とても静かな時間が流れていました。



日本庭園

池泉回遊式の庭園で、ゆるやかに水が流れています。古くは鴨場として作られ昭和初期に日本庭園として改装されました。毎年 11 月には 130 年以上の歴史がある菊花壇展が開催されます。(毎年 11 月 1 日 ~ 15 日 会期中は無休で開園)



イギリス風景式庭園

広大な芝生とそこに点在する巨樹が目を引き庭園です。木々は自然のままにのびのびと育っており、庭園の中心部には御苑のシンボルツリーである高さ 30m を超えるユリノキがそびえています。シートを広げてくつろぐところが新宿であることを忘れてしまいそうです。



玉藻池

御苑のルーツである内藤家下屋敷の庭園 (玉川園) に由来します。池の形や中島の位置はその跡をとどめているといわれています。



大木戸休憩所からは玉藻池を望むことができます。ここには御殿が建てられていました。

母と子の森

都会に住む子どもたちが自然とふれ合えるようにとの目的で昭和 60 年に造られました。明るい森と暗い森がありそれぞれで生きる生き物を観察できます。また年間を通して親子自然教室が開催されています。

